

[美術館員随想]

文華苑のササユリ達

今回、文華苑だよりとして、ササユリについてご紹介したいと思っております。

この3月、山と溪谷社発行のJガイドホリデー「奈良一花の名所12カ月」の本に、6月の花として、大和文華館の笹百合が掲載されましたことを機会に、ササユリについて触れたいと思います。

私達が常日頃思っていることではありますが、館の苑には、どこ地のにも負けない植物があるのです。それは、私達が丹精込めて育てているササユリです。

ササユリの花は、5月の下旬から6月の中旬にかけて、苑を淡いピンクと香りで包んでくれます。こんな素晴らしい植物が自生していること事態、奇跡にも近いと思っ、先輩達は勿論、私達、苑を手入れする者は、移植、種蒔き、

下草刈り、又は、踏まれたり刈られたりしないように目印を付けたりして、保護に務めてまいりました。華麗であるからこそ、脆弱、環境の変化に敏感な植物で、一般の家庭の庭での栽培は非常に困難で、1、2年はなんとか開花しても、それ以後は開花しなくなり、何時しか草丈が低くなって、消えてしまいます。昔は、近辺の山林であれば、ごく普通に自生していたものでありますが、時代と共に、自生地は開発されたり、人が山の手入れをしなくなったのが原因で、他の植物に負け、殆ど姿を消してしまいましたが、希に、生育環境に合った地では、見受けられます。

ササユリは、テッポウユリ亜属です。分布は、中部、近畿、中国、四国地方が主です。開花期は、自生地により5月下旬～7月上旬。花数は1～3輪で、中に7～8輪の物もあります。草丈は60～100cm。半日陰を好み、樹陰の雑草の

中に生育しますが、栽培は殆ど行われていません。花は芳香があり、色は、薄いピンクですが、少し濃いピンク、又は白に近いものもあります。発芽してから開花するまで数年以上かかります。ユリの仲間には、種子が落下して発芽するのに、1年以上かかるもの、又は、1、2カ月で発芽し、翌年には開花するものなど多様です。ササユリは、ヤマユリと同様に、発芽するのに1年以上かかります。それは、高温感応期(地下発芽誘導期)、低温感応期(地上発芽誘導期)が必要であるためです。仮に、秋に種子を蒔いても、翌々年の春にならないと発芽しません。(人工的に発芽を早くすることが出来ます。)この様な特徴から見ると、文華苑の環境はササユリにとって適していると言えるでしょう。

以前、文華苑の松が毎年多量に枯れたのが幸いしてか、年々ササユリの花数が多くなっていったことを思い出します。これはどうしてであったのか今考えてみますと、太陽光線の当りが良くなって、生育環境に、良い結果をもたらしたので。適度の光線と適度の湿り、そして適度の下草が、生息を可能にしたのだと思います。

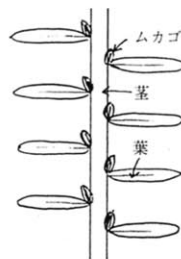
文華苑のササユリ



苑のかなり広い範囲で群生していますが、未開花のものを含めると、本数は数えることが不可能です。しかし、大変困ったことには、ある一部分ではありますが、オニユリとの混生地で、ササユリが負けてしまうことです。オニユリの繁殖は種子でなく、ムカゴです。成長も早く、草丈も高く、共生は困難です。オニユリもいなど数個のムカゴを蒔いたのが、とんでもないことになってしまいました。植物の性質を知ることが、いかに大切なことであるかを痛感いたしました。

社会の進歩と共に自然破壊も進み、ササユリだけでなく、原種のユリの数がどんどん少なくなっているのが現状です。又、乱獲も、少なくなった原因の一つと言えます。残念な事ではありますが、苑のササユリも、盗難にあったことが、幾度もありました。数十本も抱えて、逃げ去る姿を見かけた時は、本当に信じられませんでした。人間だけでなく鳥も悪いことをするのです。ユリの花を食べることがあります。開花寸前で、花を7輪付けたものが、鳥に食べられてしまったのを今でも忘れることが出来ません。これは、辺りの雑草を奇麗に刈ったのが原因だっ

\*オニユリについてムカゴ(珠芽)



ムカゴは、肉芽と鱗芽の総称で、ヤマノイモやオニユリなどの葉のつけ根にできる多肉のかたまりで、地面に落ちて芽を出す。

(図、表も筆者作製)

たのです。鳥は、雑草が多く生えている地へ舞い降りることは殆どありません。開花前に、根元から切られてしまいますと、次に開花するのに、4、5年もかかります。新芽を踏まれても同じことです。又、生息環境が悪いとウイルス病にかかり良い花が期待出来ません。ササユリの敵となるものは、この自然界に多く存在するのです。

文華館が始まって以来36年、ササユリは樹木に、雑草に、そして人間に支えられ又は阻まれながら生き延びて来ました。もし自然が、人間が支えにならなかつたとすれば、たちまち、この苑から姿を消してしまうに違いありません。だからこそ、文華苑のササユリは先輩達を含め、館員全員の力で今日まで生息出来たのだと思っておりますし、これからも、保護を続けていかなければならないと思えます。

6月の中旬、大和文華館に来られる機会がございましたら、本館に通じる道路の両脇に華麗なユリが、咲いているのを、ご覧になってください。

余り、ササユリのことを誉めてばかりいますと、他の植物が怒って来ますのでこれ位にしたいと思います。(大平良一)

\*遅発芽のユリの発芽

季節	種の状態
秋	種蒔き
冬	
春	
夏	地下発芽誘導期
秋	地下発芽期
冬	小球形成期
春	地上発芽誘導期
夏	地上発芽期